

春風がほのかな梅の香りを吹き寄せる今日の佳き日、PTA会長 池田淳様、黄城会副会長 井手真喜子様、教育振興会副会長 國司稔生様ほか、多数のご来賓の皆様方、並びに保護者の皆さまのご臨席を賜り、ここに佐賀県立小城高等学校第七十二回卒業証書授与式を無事に挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与した二二五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの高校生活は、志を大きく育みながら夢の実現を目指した青春の一コマ、一コマではなかったでしょうか。皆さんの直向きな姿は、後輩たちに希望を与え、保護者や地域の方々にも、たくさん元気を与えてくれました。たまたま時代の転換期に巡り合わせたということもあり、皆さんの高校生活は、正に「変化」と隣り合わせの三年間であったと思います。

世界の二大強国と言われているアメリカと中国の貿易摩擦の激化は、世界平和とグローバル経済に不安の影を落としています。また、トランプ政権のTPP離脱やジョンソン首相率いるイギリス議会のEU離脱の議決は、反グローバル資本主義である自国第一主義の台頭であると見なされています。

一方、大型台風上陸や記録的短時間大雨など世界的に異常気象が見られる中、ここ佐賀においても、自然災害の甚大化を痛感する豪雨災害が起りました。異常な熱波に見舞われたオーストラリアの大規模森林火災、北極海の氷や世界の氷河や永久凍土の消失、日本の雪国での深刻な雪不足などは、世界的な規模で地球温暖化に伴う環境破壊が深刻化していることへの警鐘です。

さらに、スポーツ界では世代交代が進み、若い力が躍動しています。ラグビーワールドカップでは、桜の勇者たちが八強入りという日本ラグビー界に新しい歴史を刻みました。先月には、フィギアスケート界の第一人者、羽生結弦選手が、主要な国際大会完全制覇のスーパースラムを達成するという金字塔を打ち立てました。

平成から令和にかけて、世相は大きく移り変わっています。平成時代は「変化の時代」、令和時代は、変化のスピードが速すぎて戸惑うこと多い「混乱の時代」とも呼ばれています。このような激動の時代を生き抜くキーワードは「変化・変革」です。今、社会の関心は、時代を創る新しい力を育てること、及びその力を結集しイノベーションを起こすことに移っています。これからは、人やモノ、技術といった有形・無形の限られた資源と人のアイデアをどのように融合させるか、あるいは、これまでのやり方や価値観に囚われず、本来の能力や強みをうまく引き出す方法を柔軟に考えていくことが求められます。

例えば、IBM社では、「Think」（考えて考えて考え抜け）という意味の標語が社内のあるところに掲げられ、アップル社のステイブジョブズは、「Stay hungry Stay foolish」（ハングリー精神と好奇心を抱いて、常識や固定観念に囚われずに新しいことに挑戦せよ）と若者を鼓舞しました。成功の鍵は、アイデアです。多様な知恵を結集して良いアイデアが生まれれば、必ず持続可能な社会が実現できると信じます。

では、知恵やアイデアは、どうしたら出てくるのか。日本を代表する実業家で「経営の神様」と慕われる松下幸之助氏は、「**商売は知識ではなく、知恵でやるもんや。その知恵はどこから出てくるか知ってるか。ええか、まず必要なのは知識やで。でも知識だけじゃいかん。知識に熱意を掛け算し、それに経験を加えて出てくるのが知恵や**」と言っています。松下流の「知恵を生み出す公式」とは、「**知識×熱意+経験**」であるというのです。この教えは、現代を生き抜く処世訓としても大へん参考になります。

さて、今年は次世代通信規格「5G」の本格的なサービスがスタートします。「5G」は、今後、AIやIoT、ロボット、ドローンといったテクノロジーの開発に飛躍的な発達をもたらすでしょう。生産性の向上、ビジネスチャンスの拡大、Society5.0の実現、持続可能な開発目標であるSDGsの達成、

少子高齢化対策など、「5G」への期待が大きく膨らんでいきます。

令和時代は「アイディアを形にしやすい時代」です。当面する社会的な課題解決のヒントは、個々人のアイディアの中に存在します。東京五輪において、日本人の英知を結集して世界平和の実現を提案したり、大量のデータを瞬時にやり取りできる「5G」の活かし方についてお互いの知恵を競い合う等、これからは個々人の知恵やアイディアが試されることになるでしょう。

ところで、私たち日本人は、意思を決定する際に、伝統的にその場の「空気」に支配されてきました。今から四十年以上も前に書かれた山本七平の『「空気」の研究』には、『「空気」とは非常に強固でほぼ絶対的な支配力を持つ『判断の基準』である、『「空気」とはまことに大きな絶対権を持った妖怪である』などと記されています。そして、現代に至っても、場面場面で、論理的な判断基準と空氣的な判断基準が使い分けられているようです。一時期、政界において「忖度」（そんたく）という言葉が飛び交いましたが、私たちは、日本人固有の気質として、自らの判断でその場の雰囲気や他人の心情を推し量って、それを優先しがちです。しかし、「変化」を生み出すには、今までのやり方に囚われない自由な発想が必要です。茶人千利休も、「**習ひなきを以て極意とする**」として、決まりやしきたりを求めず、己の信じる道を突き進めと道を説いています。スポーツ界では、膨大なデータや科学的なデータ分析に基づいた新しい練習方法を取り入れたり、ラグビー日本代表のように、メンバーの約半数が海外出身または外国籍という多様性を特色とする「ワンチーム」づくりに取り組む等、これまでのやりかたに縛られない新しいスタイルに活路を見い出しています。現代のような激動の時代にあつては、もはや場の「空気」を讀んで「変えない」「変わらない」という選択肢はあり得ません。むしろ「**空気を変える**」「**風を起こす**」という言葉のように、進んで変化を生み出し、積極的にイノベーションを起こそうとすることが、令和時代を生き抜く術であると信じます。

皆さんは、これから新しいステージへと巣立っていきます。皆さんにとって、卒業後に次のステージへと引き継がれていくものは何でしょうか。新元号「令和」の由来とされている『万葉集』巻五の「梅花の歌」三十二首の中に、唯一、「梅」以外に「桜」が詠み込まれている和歌があります。

梅の花 咲きて散るなば 桜花 継ぎて咲くべく なりにてあらずや（薬師張氏福子）

今年は暖冬のせいか、例年より早く梅の見頃が過ぎてしまったようですが、代わりに桜のつぼみももう膨らみ始めています。この歌には、梅の花が散ったら、引き続き桜の花が咲きそうになっているのではないかという梅から桜への開花のバトンパスが、「継ぎて咲く」という言葉で巧みに詠み込まれています。梅から桜のように、皆さんに次のステージへと引き継いで欲しいのは、高校でのたくさんの学びや旺盛な好奇心、多様なチャレンジを実現させてくれた勇氣、時代を創る主役の座です。千年以上も前の和歌が、悠久の時を超えて皆さんの門出を祝福するかのよう聞こえてきます。

終わりにりましたが、保護者の皆様に、本校の教育方針をご理解いただき、多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、衷心より感謝申し上げます。また、その間、お子様の健やかな成長を願って注がれましたご慈愛に対し敬意を表します。

それでは、卒業生の皆さん、いよいよお別れです。皆さんが、新しき時代の頼もしい担い手となることを期待するとともに、一人ひとりの前途に幸多かれと祈念し、式辞といたします。

令和二年三月一日

佐賀県立小城高等学校

校長

永田 彰浩